虹彩結核ノ一例

メタデー	言語: jpn	
	出版者:	
	公開日: 2017-10-04	
	キーワード (Ja):	
	キーワード (En):	
	作成者:	
	メールアドレス:	
	所属:	
URL	http://hdl.handle.net/2297/3	8293

岡本京太郎、 所謂脾疳ノ症狀ニ就テ、第八囘日本內科學會々誌、 明

余玉亦及今同一例尹實驗セシ尹以テ此二報告ス

治四十四年

二三、岡本京太郎、

牌疳發生ニ關スルニ三ノ事項、兒科雜誌第百五十六號

●虹

彩 結

核

ノ

例

佐

秀

彩結核ニ關シテ報告セルハ一八七〇年ニ Gradenigo 氏ヲ以テ嚆矢トナス次 眼ノ結核ハ凡ソ四十餘年前ヨリ漸ク人ノ注意スル所トナリシモノニシテ虹

的ニ精細ノ研究途ゲラレタリ本那ニ於テ是迄報告セラレタル 明治三十一年井上達七郎氏が虹彩毛様体ョリ發生セル結核ノ一例トシ

現症

テ Haab, Michel 氏等多數ノ學者報告相踵デ出デ今ヤ臨床上並病理細菌學

二、仝三十二年近藤成美、 テ眼科學會雜誌二卷三 田中祐吉兩氏が虹彩結核ノ一例トシテ東京醫事

四、仝三十八年筑柴季雄氏が虹彩結核ノ一例トシテ眼科學會雜誌九卷ニ 三、仝三十二年井上達七郎氏が彩虹結核ノ一例トシテ眼科學會雜誌三卷ニ

仝四十年阿部定二氏が粟粒結核ノ一例トシテ眼科臨床醫報ニ 本年三月荻生徳氏が虹彩結核ニ就テ千葉醫專校友會雜誌ニ報告セラル 仝四十二年奥瀨行藏氏が虹彩結核ノ一例トシテ眼科學會雜誌十三卷二

> 病歷 患者四歳ノ時麻疹ヲ經過ス昨年五月頃陰部ニ小ナル發疹六個程併列シテ 兄一人健存ス ハ健康ナリ母ハ患者出産二年前ニ痲疾ニ罹リシ事アリ目下妊娠中ニシテ 河北郡学野氣、澤本某女六年、祖父母健存、 父ハ梅毒ヲ患へ目下

ルニ氣付キシモーケ月程放置セリト三月某醫ニ依リテ驅梅法ヲ試ミラレ 物治ニ趣キシー月頃ヨリ眼黑玉内ニ現形ノ三分ノーヨリ小ナル白色物ア ビ顔面頭部ニー種ノ腫物ヲ生ジ甚タ頑固ナリシカド醫治セリ然ルニ該腫 生ジ醫治ヲ受ケ三週間ニシテ治シタリト十一月ヨリ本年一月ニ渡リ手及

四月二十七日ナリキ シコトニヶ月餘ナリシモ治セズシテ漸時大トナル依テ來院診ヲ乞フ時ニ

体格築養中等ナレモ腺病質ニシテ左右頸腺腫脹チ見ル、左眼異常

頭大ノ浸潤アリ虹彩ハ下方根部ニ米粒大ヨリ稍~大ナルモノー個外方ニ ナク右眼ハ瞼結膜僅カニ充血輕度ノ角膜周擁充血アリ角膜中央ニハ帽針

力ハ患者幼稚ナリシヲ以テ計リ得ザリシモ指數ヲ辨スルニハ充分ナリキ 結節ハ凹凸不平周圍ノ境界明瞭ナ欠キ灰白色ニシテ血管ノ侵入ナ見ズ視

牛米粒大ノモノー箇兩者ノ中央小虹彩輸部ニ最小ナルモノー箇アリ最大

箇月餘ヲ經五月三十日突然來院入院ス當時ハ結節恰モ腫瘤狀ヲ呈シー塊 依テ臨床上ノ診斷ハ虹彩結核ミトテ即時入院チ勸告セシモ應セズ其後一

トナリ大サ大豆大血管ノ侵入ヲ見ルー見 Blumenkohl ノ如ク既往症ョ

六月二日內科的疾患ノ存否ヲ知ランガ爲メ內科ノ診斷ヲ乞ワシメシニ諸

或心護膜腫ニ非ザルナキヤチ疑ハシメタリ

第 +

八 卷

第

七 號

<u>=</u>0

九

t

六、丸尾晋氏ハ虹彩ニ生ジタル結核ニ就テ患者供覧(醫事新聞

五、全年吉池省吾氏が金澤病院ニテ實驗セラレタル一例サ十全會ニテ講演

第九十號

第 + 八 卷

(原著及實驗

後十日程ニテ尚ホ輕度炎性症狀アリシモ事故退院ス、其後半ケ月程經テ 内臓ニ何等ノ異常常ナク 二依リテ同日全身麻醉ノ下ニ角膜下方ヨリ切開チ加へ腫瘍チ剔出セリ術 Narkose ニ堪ユルモノナリトノ確信ヲ得タル

腫物ノ肉眼的所見 來ル當時炎性症狀全ク去り虹彩萎縮二傾キツ、アルチ見タリ シ帶黄褐色ラ呈ス 大豆大ニシテ柔軟ニ且脆シ裏面ニ虹彩ノ一部ヲ附着

顯微鏡的所見 菌ニ向ツテノ染色法チ行へり 「ヘマトキシリン、エオジン」重復染色ノ後一般組織的ノ檢査ヲ遂ゲ尙細 虹彩ハ汎ク圓形細胞ノ浸潤ヲ呈シ所々色素顆粒ノ存在ヲ

之チ一〇%ノ「フォルマリン」ニ硬化シ「ツエロイジン」包埋切片トナシ

固有病變ニヨリ結核タルハ疑ヲ容レズ 皮樣細胞及ビ結核固有ノ所謂氏巨態細胞チ見ル、乾酪變性ハ認メ得ザリ 認メ毛細管ノ新生セル部アリテ内腔ハ血球ヲ以テ充實ス此ノ他多數ノ上 結核菌ハ敷枚ノ「プレパラート」ニ就テ檢セシモ陰性ニ終レリ然レモ

瞳孔縁又ハ毛榛縁ニ生ジ血管ノ新生チ供フ然レトモ尚ホ確實ナルハ「ツ 下半部ナリ、此ニ最モ誤リ易キハ護膜腫ナリ護膜腫ハ其色黄赤色ナルト クハ虹彩ノ下牛部ナリ次デ好發スル所ハ Kammerdinkel ニシテ同樣ニ

ペルクリン」、「ワツセルマン」氏反應、家兎ノ前房内接種試驗及ビ顯微鏡

虹彩結核ハ多り幼年者ニ發シ部位ハ瞳孔縁ョリ隔リテ小虹彩輪ニ近り多

虹彩結核チ Haab 的檢査ナル 氏パ臨床上

一、小結節ヲ生ズル比較的良性ノ虹彩炎ト

Michel 氏く 所謂肉芽様ノ大ナル結節ヲ生ズルモノトニ區別

一、比較的良性ノ虹彩結節ニシテ小ナル帯黄色ノ結節虹彩面ニ顯ハレ發

育ノ傾キ少キモノ

=

二、所謂虹彩肉芽腫ニシテ結核竈ハ前房ノ大サラ占メ増大スル傾向强シ 三、單純炎症ニシテ殆ンド特種ノ微ナキモノトニ區別セリ

盖シ余が例れ Haab, Michel 氏ノ第二種ノ即チ Solitartuberkel ニ魔スル

Leber Fuchs. de Wecker 氏等ハ續發說ヲ固守シ虹彩結核ト言ハド早晩全 本症が特發性ナリヤ否ヤハ最モ興味アル問題ニシテ諸家ノ所論一定セズ モノナリ

身ノ他部ニモ同一疾病ノ發顯スルモノナリト之ニ反シ Denig 氏ハ八十六

性ナリト尚ホ多數ノ調査サ行へシニ虹彩結核ハ結核菌感染ノ初徴タルコト 例ノ虹彩毛様体結核ヲ錄シ六十七例ハ他臟器ニ結核竈ヲ見ズ十九例ハ續發 アリトノ結果ヲ得タリ其他 Parinand, Poneet, Axexander, Hirschberg,

Samelsohn, Bach 氏等モ斯ル例テ見タリト、

余が例が其ノ何レニ属スルカ

ハ今後ノ經過ヲ見ザレバ斷定シ得ズ

命名セリ 又近時最惡症タル 孤立性結核モ 屢~良性ノ轉歸ヲ 取ルモノアリ テ自然ニ治スルモノアリ Leber 氏ハ之チ Abgeschwächte Tuberculoseト 結核ハ多クハ途二眼球療三陷ルモ毎常斯ル不良ノ轉歸ラ取ルモノニ非ズシ

終リニ臨ミ本報告ヲ許容セラレタル恩師高安博士並組織診斷ニ對シ多大ノ ク將來ノ經過ニ待タザル可カラズ 余ガ例ハ眼球癆ハ免レザルベキモ他ノ臟器ニ變狀チ來スカ否カハ須ラ

<u>۱</u>

)早發性癡病ノ身體的 記症候

ŀ テノ遅脈

大久保山田腦病院

東京

井 村 勇 作

見ル所ニシテーハ脈搏ノ變化ニシテ他ハ皮膚細小血管ノ機械的興奮性ノ増 官能性精神病ノ身體的症候トシテ心臟及ビ血管運動神經作用ノ異常ハ屢く

又皮膚チ輕擦スレバ顯著ナル皮膚紋劃チ呈ス、必ズシモ一定ノ疾患ニ限リ

悸著ジク亢進シ從テ脈搏敷甚シク増加ス

進是ナリ而シテ此兩症候ハ總テ神經質個人が輕度ノ身體的過勞ノ後ニモ心

變化ナクシテ脈搏敷ハ異常ニ减少ス、如斯脈搏ノ緩徐ハ如何ナル精神病ノ ノアリテ或ル精神病ノ全經過或ハ一定ノ期間心臓ニハ何等ノ認ムベキ病的 テ表ハル、症候ニアラズ、然レドモ兹ニ脈搏ノ緩徐 Pulsus marus ナルモ

Krafft-Ebing 氏ハ精神病者ノ興奮ト脈搏トノ關係ヲ其教科書ニ記シテ曰 如何ナル狀態ニ於テ見得ルモノナリヤニ就テハ學者ノ注意スル所ナリ、

り、『躁暴狀態ニ於テモ尙壓~脈搏ノ異常ニ减少シ甚シキハー分時間ニ四十

トナル事アリ』ト

チ、脈搏减少ヲ鬱憂狀態ノ患者ニ就テ實驗シ之レニ反シテ躁揚病ニ於テ屢 Ziehen 氏モ亦精神病ト脈搏ノ異常ヲ彼ノ教科書中ニ記載スル所アリ。即 く脈搏ノ著シキ増加スルチ認メ、廻歸病者ニハ其數一分時間ニ十五乃至二

> 所ナカリシガ Knapp 氏ハ千九百〇八年之レニ關スル古今ノ文獻ヲ蒐集シ 是等ノ諸氏ハ其脈搏緩徐ガー定期間持續スルヤ否ヤニ就テハ何等明言スル

狀態ニアリテハ著シク減少スル事アリト記セリ

Kraepelin 氏ハ躁鬱病ニ於テハ脈搏一般ニ多少增加スレドモ緊張病性昏迷

十ナルモノチ實驗セショトアリト唱フ

セリ又 E. Meyer 氏ハ『早發性癡病ノ身體的症候』トシテ約一週間ニ渡リテ 自家ノ實驗ヲ加ヘテ詳細ナル報告ヲ遂ゲ Pförtner 氏モ同様ノ業績ヲ公ニ

分間四十乃至五十ノ減少ヲ呈セルー例ノ早發性癡病ヲ記載セリ

神症狀ノ持續及ビ弛張ト糖分量ト相平行シタルモノヲ認メ『神經性糖尿病 余頃者早發性癡病ノ身體的症候ニ注意スル間先頃其尿中ニ糖分ノ出現シ精 二就テ附精神病性糖尿病ノ三例』ト題シテ醫事新聞第八百五十八號ニ記載

持續スルモノ、 シ置キタリの今又早發性凝病者二就テ脈搏ノ數者シク減少シ稍く久シキ間 例ニ遭遇シタルが故ニ貴重ナル紙面ラ借リテ兹ニ是レラ記

例 靜岡縣庵原郡○原村○羽 載ス

第

精神病及ビ神經病的遺傳チ認メズ、若年ヨリ神經質ニシテ强健ナラザリシ 牧 四十六歲

が著患ナク、擧子七人ヲ有シ流産等ナク黴毒ニ感染シタルコトナシト

云フ

室ニ籠リテ爲スコトモ無り又深り憂慮スル所アルが如クニモアラズシテ字 明治四十一年六月頃ヨリ氣力衰へ家事萬端ニ無頓著トナリ獨リー

現今

シク月日ヲ消費セリ斯クテ四十三年ニ及ビ四月頃ヨリ何等認ム可キ原因 「吾レハ罪チ犯セリ、警察ニ召喚セラル可シ、 小供モ捕ハレテ獄狸ニ呻

七 號

第 +

八

惒

第

(原著及實驗

ŋ

第九十號

Ŧ.